



【城山小学校 原爆殉難者の碑の話】

今回の平和祈念式では、「原爆殉難者の碑」についてお話をします。今から79年前の8月9日、11時2分。城山小学校から500mのところ原子爆弾が落とされました。長崎の街は一瞬で吹き飛ばされ、燃やされ、たくさんの方が亡くなりました。そのとき、城山小学校では、中学生や高校生などがこの場所で働いていました。嘉代子桜の嘉代子さんもここで働いていました。28名の先生、そして105名の人たちが、城山小学校の敷地内でなくなったのです。城山小学校に通っていた子どもたちは、1400人以上、自宅でなくなりました。

戦争が終わり、4年たった頃、亡くなった方々の冥福をお祈りするために、焼け残されていた木の柱を使い、「供養塔」が建てられました。建てられたのは、現在の体育館の近くです。現在も続いている平和祈念式や慰霊式がこの供養塔の前で行われました。戦争から21年たったころ、体育館を建てるため「供養塔」を動かさなければいけなくなりました。そこで、当時の先生方や子どもたち、そして地域の様々な人たちの協力で、今のこの場所に「原爆殉難者の碑」が建てられたのです。

「原爆殉難者の碑」はいくつかの石の塊でできています。みなさんから見て左側の立体は「遺族」：原爆で亡くなった方の家族を表します。右側の塊は「人類」を表しています。上にある大きな塊が「殉難者」：原爆で亡くなった方を表します。後ろには白い壁があり、核兵器の恐ろしさと核兵器を持っている国に対する厚い壁を表しています。また、壁には「み魂よ 安らぎて永久にましませ」と「子らのみ魂よ」の歌詞が書かれています。このように、原爆で亡くなられた方や遺族の悲しみや平和に対する思いが込められているのです。だから、皆さんは、平和祈念式のたびに、この碑の方を向いて、平和を願って黙とうをしているのです。

今日は皆さんにお願いが2つあります。皆さんが普段使っている、この運動場は、たくさんの方の命が眠っています。この運動場にごみを捨てたり、唾を吐いたりしないでほしいです。その他にも、城山小学校には、たくさんの方の平和遺構があります。これまでの平和祈念式で、先生方が紹介してくれたように、私たちにとって大切な場所です。これからも、城山小学校のみんなで大切に守り、つなげていきましょう。

そして、最後にもう一つお願いがあります。城山小学校では「平和は城山から」を合言葉に「PEACE飛び交う 楽しい学校」を目指しています。みんなが仲間のために動き、幸せいっぱいになるためにがんばる子。仲間の考えのよさを認め、考えのちがいを話し合って解決できる子。仲間のよいところや学んだことを生かして、チャレンジする子。このような姿が、もっともこの城山小学校にあふれるようになるといいなと願っています。「平和を願い、戦争をしません」と誓い、平和発信をする城山小学校のみんなで、「PEACE飛び交う 楽しい学校」をつくっていきましょう。

身近な平和が作れなければ、遠くの戦争を止めることはできません。原爆殉難者の碑が見つめる、この城山小学校の運動場には、平和を願うたくさんの方の命が眠っています。これからも城山小学校を「PEACE飛び交う 楽しい学校」を目指し、「いたわり はげます 平和な学校」にしていきましょう。